

脳・神経・精神科 脳神経外科

病棟 西病棟 4F、東病棟 5F、西病棟 11F

外来 外来診療棟A 3F 連絡先 022-717-7752(外来)

ホームページ http://www.hosp.tohoku.ac.jp/sinryou/s25_nousinkei.html



科長
富永 悌二 教授

主な対象疾患

- 脳血管障害(くも膜下出血、脳動脈瘤、もやもや病) ●脳腫瘍(良性・悪性腫瘍、下垂体腺腫) ●頭部外傷 ●てんかん
- パーキンソン病などの機能的疾患 ●小児疾患 ●定位放射線治療 ●脊髄・脊椎疾患

診療内容

当科の診療の特色

私たちは大学病院を中心に、仙台圏の基幹病院と連携しながら、脳神経外科の全ての分野について専門的な診断・治療を提供しています。

脳血管障害

専門医による脳血管病変の早期発見・診断・治療を行っています。脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など脳卒中の急性期治療に加え、脳動脈瘤・脳動脈静脈奇形・硬膜動脈静脈奇形・海綿状血管腫・もやもや病などの治療に豊富な経験を有します。治療が困難な脳動脈静脈奇形に対しては脳血管内治療科や定位放射線治療専門医と連携して患者さん毎のリスクベネフィットを考慮して多角的な治療選択肢を提供しています。

脳腫瘍

神経膠腫、髄膜腫、聴神経鞘腫、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫、下垂体腫瘍、転移性脳腫瘍などを対象に、手術に加えて放射線治療や化学療法などの集学的治療を行っています。

当科の特徴として、手術が困難な脳幹部神経膠腫に対して定位的にカテーテルを留置し、化学療法剤を注入するCED (Convection-enhanced delivery)法を臨床に応用しています。また、手術にあたっては脳機能マッピングを駆使しながら、機能温存を図りながら最大限の治療効果を得る方法を実践しています。頭蓋底部腫瘍の手術では必要に応じ耳鼻咽喉科・形成外科・口腔外科と協力して治療にあたります。

てんかん外科

難治てんかんに対する外科治療を積極的に行っています。てんかん科・小児科・放射線診断科・高次脳機能障害科と連携して発作モニタリングを含む包括的術前検査を行い、定期カンファランスのもと手術適応を決

定します。高磁場MRI・脳磁図・PETなどの術前画像診断や留置頭蓋内電極による生理学的検査に基づいた的確な治療を提供します。

神経内視鏡手術

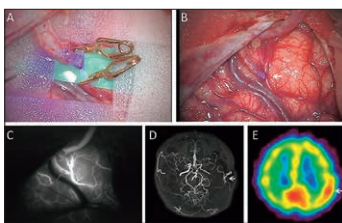
神経内視鏡手術は侵襲の低い新しい手法として脚光を浴びています。開頭術に比べ、脳損傷のリスクを小さく抑えることが可能ですが、手術操作に高度な専門性が求められます。閉塞性水頭症に対する軟性鏡を用いた第三脳室底開窓術や、硬性鏡を用いた脳室内腫瘍摘出術、経鼻内視鏡手術など、低侵襲で確実な次世代の脳神経外科手術を提供します。

その他

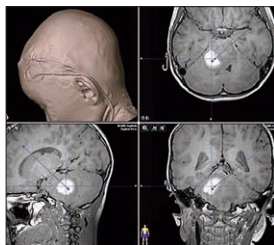
高度脳卒中治療および下垂体腺腫(広南病院)、脊椎脊髄外科(仙台医療センター)、小児脳神経外科(宮城県立子ども病院)、パーキンソン病・本態性振戦など不随意運動疾患(宮城病院)、各種疾患に対する定位放射線治療(鈴木二郎記念ガンマハウス)など、関連基幹病院の専門医と連携して治療を提供します。

診療体制

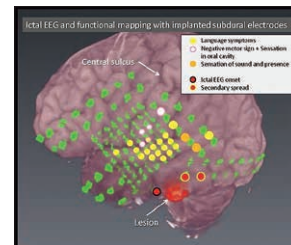
私たちは幅広い脳神経疾患に適切・的確な医療を提供するために、放射線診断科・治療科、小児科・小児医療センター、てんかん科などと密な連携をとる体制を整えています。また、各疾患に対するサブスペシャリティ領域の専門性を高めつつ、仙台圏の基幹病院と連携しながら、脳神経外科の全ての分野について専門的な診断・治療を提供しています。さらに、希少難治疾患に対しても、東北地区の基幹病院として適切な医療を提供できる体制を整えています。



もやもや病に対する血管再建術



脳幹部神経膠腫への局所薬剤投与(CED法)



留置硬膜下電極による発作および機能マッピング(てんかん外科)

ご紹介いただく際の留意事項

- 新患日は月・木です。完全予約制になっておりますので、地域医療連携センターにて新患予約をお願いします。